



伊丹工房 —職人と出会う1日—

見て、聞いて、ワクワク体感！伊丹オープンファクトリー



今回ご紹介するのは、伊丹市北河原にある株式会社エムアンドエーのオープンファクトリー！“みんなのワクワクをカタチにする”をモットーとしたプロのモノづくり集団を独自取材しました。

オープンファクトリーとは、製造業が製造現場を公開し、企業や市民の方々にものづくりの過程を見学・体験していただくことができるイベントのことである。普段は立ち入ることのできない工場や工房の内部を見ることができ、職人や技術者の手仕事を間近で見ることができる。また、地域の産業を身近に感じてもらうだけでなく、製品が生まれる過程を知ること、ものづくりに対する理解を深める機会としても注目されている。

今回の取材先は、工場街から少し離れた川沿いに佇む閑静な住宅街。その一角で、夜になると暗闇の中に静かに灯るのが、(株)エムアンドエーだ。かつては女性の一人歩きに不安の声が上がっていたこの通りも、今では近隣住民の間で安心できる場所として喜ばれている。さらには、住民の中には庭の手入れや掃除まで率先して行う人も現れるほどだ。

「地域の変化を実感しています」と語るのは、金澤代表。昨年迎えた創立30周年記念を目途に移転し、会社のイメージアップだけでなく、大企業からお声がかかるようになるなど、認知度もあがったとのこと。

また、トライアルウィークの受け入れを初めた際は、「本当に来るのか…？」と不安があったが、意外にもものづくりに興味を持つ学生が多かったことに驚いた、と嬉しそうに語ってくれた。

社内には壁を作らず、オープンな空間が広がる。そのコンセプトを紹介してくれたのは、山崎執行役員だ。部屋の仕切りはなく、休憩室もオープンスペース。Wi-Fi が完備され、社員はどこでも仕事ができる自由な環境が整っている。一人になりたい時用の個室も用意されており、まさに「フリースタイル」という言葉が似合う。

そんな自由な空間でも、社員同士のコミュニケーションはしっかりと確保されている。社内にはキッチンがあり、毎日無料のお弁当が届く。これは福利厚生の一環で、食事の時間を通じて自然と交流が生まれる仕組みだ。



株式会社エムアンドエー

代表取締役 金澤 忠幸

住 所 伊丹市北河原2丁目9

電話番号 072-777-5564

休業日 土・日・祝

会社HP



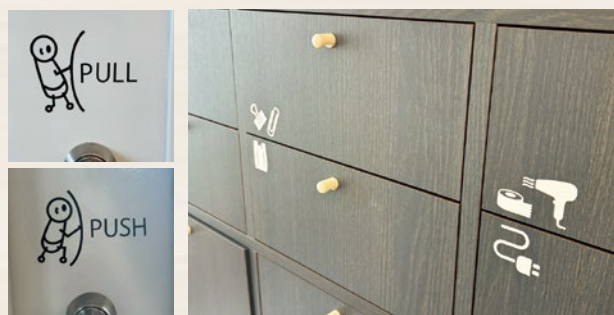
Instagram



さらに、毎年4回ゲームを活用したワークショップが設けられ、社員同士が分け隔てなく意見を言える環境作りを行っている。“他の働く人たちや自分にとってどんな企業にしたいか、社会に何を提供できる存在でありたいか”を言語化し、付箋に書き込み、できることから取り組む。

新社屋移転に伴って、社員全員が意見を出し合い、今の形の工場ができた。社長自ら先頭に立つ従来までの姿とは違い、社員一人一人の主体性を大事にしている。

社屋を見渡すと、至る所にこだわりが感じられる。例えばドアの取っ手。社員から「押すのか引くのかわかりにくい!」という声が上がリ、識別しやすいように絵を差し込んだという。他にも階段や照明など、実際に使用して気づいた使用感や素材の質感について、社員同士で意見を出し合い、お客様に提案している。10人いれば10通りの視点がある——そんな多様な意見が、新しい“ものづくり”に活かされている。



工場見学では、ナチュラルな内装の中で、職人一人ひとりの作業が際立って見える。作業工程は左から順に、在庫から出荷まで流れるように配置されており、動線がスムーズだ。その合理的な設計とともに、あまりにも少ない在庫に驚きを隠せない。「必要な時に必要な分だけ揃える」——これが最も効率的であり、無駄をなくし、ゴミを出さない取り組みの一環となっている。

さらに目を引いたのは、驚くほど整然とした工場だ。ものづくりの現場に欠かせないはずの木くずが見当たらない。その違和感について尋ねると、代表はこう語る。「木くずが飛んでいたら仕事しにくいでしょ? 体にも悪いし...」。たったそれだけのことかもしれないが、作業環境の整備は、従業員の快適さや健康に直結する重要な要素なのだ。

この工場の細やかな工夫の一つひとつが、品質の高さや効率性につながっていることを実感した。



工場見学風景



あるこーば

伊丹初、地域一体型オープンファクトリー9月27日(土)開催決定!

参加工場を巡ってものづくりを体験しよう!

7月26日(土)、27日(日)にふれあい夏祭りにて出張オープンファクトリーも開催予定!

あるこーばインスタ

